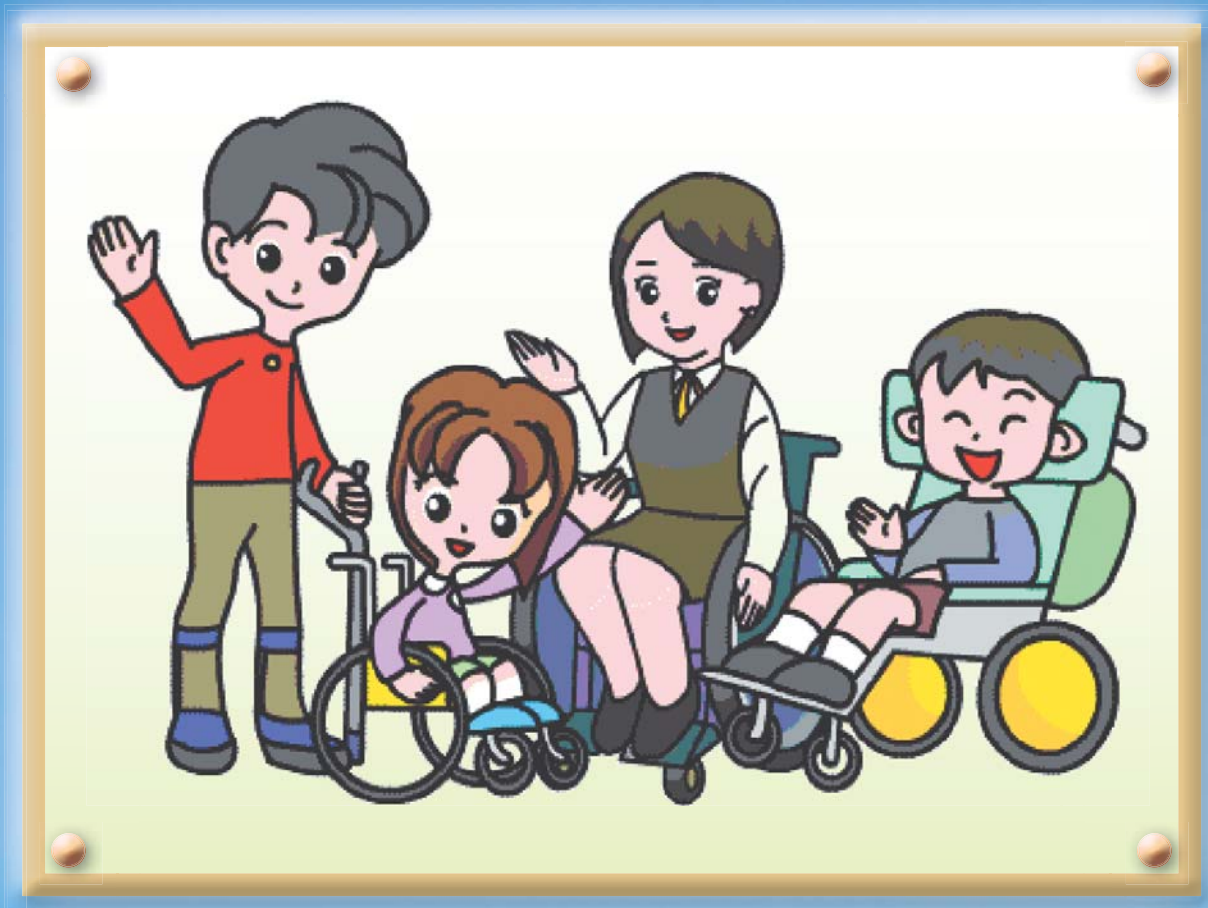


肢体不自由特別支援学校における キャリア教育の充実




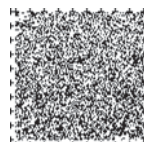
本報告書は、「東京都特別支援教育推進計画第二次実施計画」に基づき、「障害のある児童・生徒の自立と社会参加を目指した指導の推進（キャリア教育）」において、都立肢体不自由特別支援学校3校を研究指定校として研究開発した内容に基づき作成しました。特に、本報告書では、肢体不自由特別支援学校の準ずる教育課程における授業研究を中心に、小学部、中学部及び高等部までのキャリア教育の視点をまとめました。

キャリア教育は、職業生活、家庭生活、市民生活等における様々な立場や役割をキャリアとしてとらえ、児童・生徒一人一人がふさわしいキャリアを形成し自立していけるよう、必要な意欲・態度や能力等を目指していくものであり、全ての児童・生徒に適切に行われていくことが必要です。

本報告書を参考にして、全ての肢体不自由特別支援学校において、組織的に児童・生徒の実態に応じたキャリア教育が推進されることを期待しています。

平成 23 年 3 月

 東京都教育委員会



※視覚に障害のある方のために
SPコードを添付しています。



はじめに

肢体不自由特別支援学校の児童・生徒のキャリア教育とは

肢体不自由特別支援学校におけるキャリア教育とは、児童・生徒一人一人の状況に応じて、特別支援学校の卒業後の生活を視野に入れ、「自立と社会参加」を目指し、社会的自立や職業的自立そして自己実現を果たしていく力を育てる教育です。キャリア教育の内容は、小学部から高等部までの各学習段階に応じて、必要な時期に計画的に位置付けていくことが大切です。各学校には、各教科及び各教科等を合わせた指導、そして領域の中で、キャリア教育に関わる能力領域の形成を図る視点からの教育活動の見直しが求められています。

◇肢体不自由特別支援学校の教育課程とキャリア教育

肢体不自由特別支援学校においては、準ずる教育課程、知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程、自立活動を主とした教育課程の大きく3種類の教育課程が編成されています。

準ずる教育課程は、小学校、中学校及び高等学校の学年相応の各教科等の内容及び自立活動等の内容によって編成されますが、障害の状態により児童・生徒が属する当該学年の教科の学習が困難な場合、各教科の目標・内容の一部を取り扱わないこととしたり、当該学年より下の学年（学部）の目標・内容により編成したりすることができます。

また、知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程は、児童・生徒の実態を踏まえ、知的障害特別支援学校の各教科等の目標及び内容の一部によって編成することができます。

さらに自立活動を主とした教育課程は、肢体不自由の程度及び知的障害の程度がともに重度で、各教科の学習が著しく困難なため、自立活動の内容を主として学習する方が効果的であると考えられる場合に編成することができます。

各学校においては、キャリア教育の内容をそれぞれの教育課程にどのように位置付けていくのかを検討する必要があります。

本事業では、肢体不自由特別支援学校の基本的な教育課程である準ずる教育課程を中心に授業研究を行い、キャリア教育を進めていく必要な視点について整理しています。

掲載した授業実践事例は、地域機関の見学、地域の行事への参加及び地域の商店街や企業等と連携した取組など、学校と地域とが連携して、教育活動が構成されている点に特長があります。

本報告書を参考に、知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程及び自立活動を主とした教育課程においても、キャリア教育を教育課程に位置付け、その内容を研究・実践していくことが求められています。

◇肢体不自由特別支援学校のキャリア教育の充実に向けて

本報告書の実践例は、キャリア教育の四つの能力領域に基づき授業が構成されています。キャリア教育の四つの能力領域とは、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」及び「意思決定能力」を意味します。キャリア教育の推進に当たっては、各学校がこの四つの能力領域の枠組みを参考として、小学部から高等部までの各学習段階に応じて育てたい力を、授業のねらいとして位置付けていくことが必要です。

そのため、各段階に応じて育てたい力の参考例を「肢体不自由特別支援学校におけるキャリア教育の全体図」（本報告書の13ページから14ページ参照）を作成しました。この「肢体不自由特別支援学校におけるキャリア教育の全体図」は、各学校の児童・生徒の状態や課題などに基づき、校内で検討協議を行い、必要な項目を追記するなどして、各学校の児童・生徒の実態に応じた内容となるように工夫して活用するものです。

キャリア教育の推進に当たっては、障害の程度にかかわることなく、全ての児童・生徒の願いに基づき、社会の中で役割を持って生活していける力を育成するようにしていくことが必要です。



1	はじめに	1
	肢体不自由特別支援学校の児童・生徒のキャリア教育とは	
	肢体不自由特別支援学校の教育課程とキャリア教育	
	肢体不自由特別支援学校のキャリア教育の充実に向けて	
2	肢体不自由特別支援学校実践例Ⅰ～Ⅲ	3
	○小学部の授業実践「大学見学を通して、将来の夢や希望を持ち実現を目指して 努力しようとする力を育てる～自分探しの旅へ 出発!～」	3
	○中学部の授業実践「ICT 機器を活用して、表現を工夫しながら情報を発信しようとする 力を育てる ～地域の行事へ参加した感想をまとめよう～」	5
	○高等部の授業実践「オフィスワークとしての名刺作りに取り組み、責任を持って仕事を 成し遂げる力を育てる～人に感謝される仕事を体験してみよう～」	7
3	肢体不自由特別支援学校（準ずる教育課程）における課題	9
	児童・生徒の世界が広がる、新たな取組～ ICT ネットワークの活用～	10
4	キャリア教育実践に向けてのアイデア集	11
5	肢体不自由特別支援学校におけるキャリア教育の全体図	13
6	学校でキャリア教育を推進させるために	15
7	キャリア教育の全体計画の作成を通して、校内での共通理解を図りましょう	16

本書の使い方

次のページから、小学部、中学部、高等部における三つの授業実践例が示されています。

STEP 1

授業実践例の見方について、3ページの小学部の授業実践に沿って説明します。
最初に「1 キャリア教育における育てたい力」が示してあります。
これは、「肢体不自由特別支援学校におけるキャリア教育の全体図」（13ページ及び14ページ参照）の各学部段階で育てたい力の各項目を参考にして作成されています。また、〈主な配慮事項〉についても、全体図における共通領域を参考にして記述がされています。

STEP 2

次に、「2 指導計画」をみてください。
キャリア教育の中で、どのような能力領域の形成をねらっている学習内容であるのか整理してあります。
「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」の四つの能力領域が、学習内容の中でどのように位置付けているのか参考にしてください。
ここで、紹介している指導計画は、学校地域の施設、行事等の見学及び参加を通して、児童・生徒の将来に対する考える力を育てることを共通の目標としていることです。

STEP 3

4ページには、「3 学習展開の様子」及び「4 成果」が示してあります。また、11ページ及び12ページには、「キャリア教育実践に向けてのアイデア集」が紹介してあります。各学校で、指導計画をたてる際の参考としてください。
15ページからは、学校でキャリア教育を推進させるための取組が示してあります。各学校においては、学校経営計画に基づき、各職責に応じた役割分担を行い、キャリア教育の全体計画の内容を教育活動に位置付けていくことが必要です。

小学部の授業実践「総合的な学習の時間」

大学見学を通して、将来の夢や希望を持ち実現を目指して
努力しようとする力を育てる ～自分探しの旅へ 出発！～



1 キャリア教育における育てたい力

- ・将来の夢や希望を持つ（将来設計能力：小学部④）。
- ・将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする気持ちを育てる（意思決定能力：小学部⑤）。
- ・分からないことを調べたり、質問したりするなど、自分に必要な情報を探す（情報活用能力：小学部③）。
- ・自己の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する（人間関係形成能力：小学部②）。

<主な配慮事項>

- ・将来のイメージが固定化しやすいことに十分配慮し、児童本人の興味・関心・能力に応じた情報提供を一層工夫する（共通領域：小学部②）。
- ・就職、進学両面から情報収集できるように、卒業後の多様な選択肢（就職先、進学先、労働訓練機関等）について知る機会を設ける（共通領域：小学部④）。

2 指導計画

学 習 内 容<5時間>	主な観点	能力領域			
		人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
(1) 自分の夢や願いを個別の教育支援計画「サポートプランⅠ」にまとめる。	自己の現在の生活における課題、問題解決の工夫			○	◎
(2) 職業の種類を整理した職業マップ作りを行うとともに、なりたい仕事のイメージを持つ。	職業に対する様々な情報への関心・夢や希望・将来像の構築		◎	○	
(3) 特別支援学校卒業後の進路選択について考える。 地域の大学の見学 (車いすで学んでいる学生へのインタビュー)	情報収集・人との関わり コミュニケーション	◎	○		
①大学はどんなところ？	様々な情報への関心		○		
②車いすの学生に聞きたいことをまとめよう。	目標設定・様々な情報への関心		◎		○
③車いすの学生との対談（インタビュー）	場に応じた言動・意思表示	◎			
④大学での授業風景や図書館を見学	様々な情報への関心		◎		
(4) 大学見学のレポートを作ろう。	情報機器活用・伝える力		◎		○
①大学へ行ってきて、感じたこと、学んだこと。	振り返り・自己評価		○		◎
②今の自分の課題をまとめる。	課題解決・目標設定			○	◎
(5) これからの自分にメッセージを書こう。	自己理解・目標設定	○		◎	○

<配慮事項>

- ・筆記が困難な児童には、パソコンや代筆等の代替手段を活用する。

小学部段階から卒業後の進路先を見据えて、進路に関わる様々な情報を提供する機会を持つことをねらいとしました。総合的な学習の時間の中で、将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする機会となるように計画しました。子供たちは、自分の道を探しに歩き出しました。

3 学習展開の様子



大学での学習の仕方についての説明を大学の先生から受けている。



大学の図書館での閲覧や書庫を見学し、自分に必要な情報の収集の仕方を学ぶ。



車いすの学生から、自分なりに工夫できる道具についてアドバイスを受ける。



大学3年生の講義を見学し、大学での学習の様子を体験する。

〈大学見学を終えて「自分を考える」〉・・・児童のレポートから抜粋しています。

- ・人に頼む力と頼まないで自分でできる力を整理する。
- ・これからいろいろな努力や工夫をしなければいけないこと。
- ・とにかく笑顔で、たくさんの人とお話ができるようがんばります。
- ・「自分も大学にいったみたい」と希望を持って思えるようになりました。
- ・大学なら自由に学べて、夢を叶えられる場所だと感じ、自分も努力してみます。
- ・今は不安ばかりだけど、いろいろな経験をたくさんして、自信をつけたい。



4 成果

この指導計画では、将来の夢や希望の実現に向けた選択肢の一つである上級学校への進学をテーマに、地域にある大学を訪問しました。児童は、高等部を卒業してから学ぶことのできる上級学校について、知見を広めることができました。

この事例では、車いすで生活し学ぶ大学生から様々な助言を受け、困難を工夫しながら改善していくことの大切さを学びました。また、児童は、自分の将来の夢を実現するためには、「現時点で何をすべきなのか」と、自らの課題や目標を考える機会を持つことができました。将来の夢や希望に向けて新たに挑戦していく意欲を持ち、努力しようとする力を育てることができました。

中学部の授業実践「総合的な学習の時間」

ICT 機器を活用して、表現を工夫しながら情報を発信しようとする力を育てる ～地域の行事へ参加した感想をまとめよう～



1 キャリア教育における育てたい力

- ・将来の職業・進学を想定し、現在の学習の必要性を理解する（中学部：情報活用能力④）。
 - ・友達との協力関係で、物事に取り組む姿勢、経験を深める（中学部：人間関係形成能力④）。
- <主な配慮事項>
- ・自分の得意分野を生かしながら、意欲的に学習する習慣を身に付ける（共通領域：中学部①）。
 - ・自らの運動機能の制限を受容した上で、身体的機能の制限を補う、自らに適した手段や技能（パソコン入力等）を身に付ける（共通領域：中学部②）。

2 指導計画

学 習 内 容< 8時間 >	主な観点	能力領域			
		人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
(1) インターネットを活用したかかし調べ	様々な情報への関心 インターネットの活用		◎	○	
(2) かかしの構想、話し合い (材料・デザイン・顔・文字・名前等)	集団参加・協力 コミュニケーション 役割の理解・やりがい	◎			○
(3) かかしの製作 (木材加工・新聞紙の貼り付け・着色等)	問題解決・工夫 選択・意思決定				
(4) かかしコンクールへの作品出品・見学	交通機関利用・マナー 金銭の活用 地域参加・地域理解	○	◎		
(5) パソコンを活用したかかし作りのまとめ	様々な情報への関心 目標設定（意思・意欲）		○		○
①プレゼンテーションソフトや文書処理ソフトの 活用例（2学期の予定・修学旅行）					
②文書処理ソフトの基本操作 (名前入力、文字色やフォントの変更等)	情報機器の活用 選択・意思決定		◎		○
③感想メモを作成しよう (活動画像の選択、感想文の構想)	読み書き・文章表現力 選択・意思決定		◎		○
④作品の制作活動（文字入力、画像や吹き出しの 挿入、音や動きの設定、デザインやレイアウト の工夫等）	情報機器の活用 選択・意思決定 問題解決・工夫		◎		○
⑤制作した作品を発表しよう	自己評価・他者評価	◎			○
(6) 文化祭への展示	やりがい・振り返り			○	

<配慮事項>

- ・プロジェクター、プレゼンテーションソフトを活用し、課題の内容や情報機器の操作方法の説明を視覚的に提示する。また、生徒の作品を投影し、お互いに評価し合う場面を設定する。
- ・キーボードをディスプレイに表示する機能やトラックボール等の入力支援機器を有効活用する。

中学部段階では、技術・家庭（技術分野）で、製作した作品を学校の地域で開催される行事「かかしコンクール」へ出品するとともに、出品会場の見学などの学習を計画的に行いました。事後学習では、ICT 機器を活用したまとめ学習を行い、文化祭等で地域の方々にも情報発信しました。

3 学習展開の様子



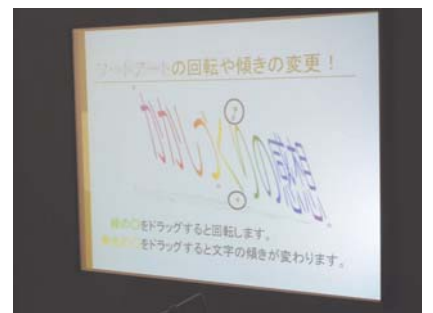
かかしの骨組みの製作。のこぎりで切った木材の面取りをするため、ベルトサンダーで角を削っている様子。かかしのデザイン・材料・名前等も生徒たちの話合いで決めた。



かかしコンクール見学。地域の方々や自分たちが製作したかかしの展示を見学する。表彰式では、代表が賞状等を受け取った。



生徒の実態に合わせ、カットテーブルや座いす等を使用し、学習に取り組む。



文書処理ソフトの操作説明。プレゼンテーションソフトを活用し、課題や操作方法等を提示しながら机間指導を行う。



制作した作品は、プロジェクターでスクリーンに投影し、工夫した点を発表して、友達からもアドバイスを受ける。



トラックボール等の支援機器を有効活用する。

4 成果

この指導計画では、かかしのデザインの様々なアイデアを話合いでまとめ、役割分担を行い製作した作品を、地域で開催される行事へ出品しました。生徒は、学校での成果を地域や社会の中で、生かしていく喜びを得ることができました。

この事例では、事後学習において、文書処理ソフトやプレゼンテーションソフトを活用して、かかし製作中の画像や会場への見学の感想をまとめる学習を実施し、ICT 機器の操作スキルを高めることができました。毎回の授業のまとめには、作品の途中経過をスクリーンに投影して報告し合い、生徒同士の自己評価や他者評価が活発になるように計画しました。

高等部の授業実践「情報」

オフィスワークとしての名刺作りに取り組み、責任を持って仕事を成し遂げる力を育てる

～人に感謝される仕事を体験してみよう～



1 キャリア教育における育てたい力

- ・学校、社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす（将来設計能力:高等部②）。
- ・将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む（意思決定能力:高等部④）。
- ・就職後の学習の機会や上級学校卒業後の就職等に関する情報を探索する（情報活用能力:高等部②）。
- ・新しい環境や人間関係を生かして、チームワークを高める（人間関係形成能力:高等部④）。

<主な配慮事項>

- ・卒業後に直面する様々な課題に対応できるように、実際の場面での経験を積み重ねながら、応用力を育てる（配慮事項:高等部②）。

2 指導計画

学 習 内 容< 10 時間 >	主な観点	能力領域			
		人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
(1) 名刺作成ソフトで自分の名刺を作成する。	自分の役割の理解と実行・情報機器の活用		◎	○	
(2) 特例子会社を訪ね、企業の現場を見学し、名刺作り業務のアドバイスを受ける。	職業生活に必要な事柄の情報収集・将来像の構築		○	◎	
(3) 名刺の受注・作成・納品までの流れを学ぶ。	情報収集・人との関わり		○		◎
(4) 本校教職員の注文用見本名刺を作成する。	目標設定・様々な情報への関心		◎		
(5) 「名刺注文票」を確認しながら本校教員の名刺作成をする。	役割の理解と働くことの意義		○		◎
(6) 営業活動を行うための、ビジネスマナーについて学ぶ。	TPOに応じた言動・コミュニケーション		◎	○	
(7) 本校経営企画室を訪ね、受注、名刺作成、納品をする。	TPOに応じた言動・コミュニケーション	○	◎		
(8) 近隣の高等学校の教職員から、名刺を受注し、作成された名刺を納品する。	TPOに応じた言動・問題解決の工夫	○	◎		
(9) 来校した保護者、教職員の写真入り、名刺を作成し、納品をする。	社会参加を目指した自己選択・問題解決の工夫	○			◎
(10) 地元商店街を訪ね、受注、作成、納品をする。	社会参加を目指した自己選択・問題解決の工夫	○			◎

<配慮事項>

- ・パソコンキーボードからの入力が困難な生徒には、携帯型マウス等の支援機器を活用する。
- ・名刺注文票や写真入り名刺、その他の個人情報の取扱いには十分に注意し、破棄書類は、必ずシュレッダーにかける習慣を身に付ける。

高等部では、教科「産業社会と人間」及び「情報」において、各教科の目標を踏まえながら、名刺作りを題材に授業を行いました。作成する名刺の受注作業は、学校内の教職員からの受注から始めて、隣接する高等学校の教職員、そして近隣の商店街の方々からへと計画的に学習しました。

3 学習展開の様子



特例子会社を訪ね、様々な事務作業を見学し、特に名刺作りの業務についての心構えやアドバイスを受ける。



一般のオフィスで使用される機器を使い、役割分担を確認して「納期を守る」「ミスをしない」ことを目標に、真剣に名刺を作成する。



近隣の高等学校の経営企画室を訪問。「名刺注文票」で名刺見本を説明し、内容を確認しながら注文をとる。



入力支援機器の携帯型マウスを使用し、手元の操作でデータを入力する。生徒が使いやすい入力支援機器を選択できるように工夫する。



完成した名刺を届け、「注文確認書」に納品確認印をもらう。その際、感謝の言葉を頂き、名刺作りの仕事をやり遂げた満足感や充実感を味わうことができた。



写真入名刺の写真撮影を行うときに使用した支援機器（カメラ、三脚、赤外線リモコン、スイッチ、パソコン等）

4 成果

この指導計画では、オフィスワーク（名刺作成会社）の作業内容を想定して、指導内容を構成しました。生徒は、複数の仕事の流れを整理した上で個々の役割分担を行い、役割に応じた責任を果たすことができました。

この事例では、パソコンやプリンター、シュレッダー等のオフィスで使用される機器の操作スキルを高めるとともに、受注や納品の際に必要なコミュニケーション能力を身に付けることができました。生徒は、名刺の納品時に注文された教職員等から感謝されることで、仕事をやり遂げた成就感が得られていました。

